

2024 年度

みすずキッズ保育園 自己評価総括表

地域社会における保育施設として、その運営や保育内容について、自らの保育実践を振り返り、自己評価を行いましたので、その結果を以下の通り公表いたします。

また、本自己評価の結果を踏まえ、今後も更なる専門性の向上や保育実践の改善に努め、より一層質の高い保育の実践を目指してまいります。

～

評価方法		
保育士等（全職員）の自己評価	評価期間	2025 年 1 月 10 日（金）～1 月 31 日（金）
	実施方法	全職員に自己評価について趣旨を説明し自己評価を実施した。
保育施設の評価	評価日	2025年2月10日（月）・2025年2月20日（金）
	実施方法	話し合いにより職場全体で共有し、保育施設の課題を明確化し、改善策を検討した。

項目ごとの評価	
保育理念	「おもいっきり遊ぶ おもいっきり学ぶ」の保育理念に則り、子ども主体の保育を実践するために、職員会・ミーティングを通じて共通理解のもと、保育にあたることができた。
子どもの発達援助	「つながる保育」を意識して環境設定（コーナー作り・玩具の出し方の工夫・手作り玩具等）を行い、一人ひとりの対応について「計画⇒実行⇒評価⇒反省」を繰り返し、クラスや全体でのミーティングを毎週行うことで共通理解し、様々な角度から発達の援助をすることが出来た。
保護者に対する支援	送迎の際の情報共有・子どものトピックス・体調等を伝えるように対応した。また、行事の様子等を「てのりの」にて動画配信し、写真を活用したことで子どもの成長を共有することができた。
保育を支える組織的基盤	自己研鑽・保育の質の向上のため、外部研修や内部研修に参加した。子どもの権利条約について学び、その都度報告会をする・定期的な職員面談・職員会議をし、スキルアップを図った。学んだ内容を保育の中で実践し、振り返り、工夫することで園全体の質の向上に努めた。

総評
「つながる保育」「生きる力を育む保育」を意識したことで短期・長期の目標を考え、個人指導計画・月案・週案に反映することができた。子どもの育ちと保護者支援を並行して行うことで子ども・保護者・保育者のトライアングルでコミュニケーションが取れるようになった。これからも子どもたち・保護者様・地域の方が「保育園が安心して生活できる場所・頼れる場所」と思えるように更に信頼関係を築き選ばれる保育園になれるようにしていきたい。

保育施設課題表

項目	2023 年度	2024 年度	2025 年度
保育施設共通の年度課題	・家庭環境に変化があることを考慮して、各家庭に見合った対応ができる様にしていく。 ・子どもの「やりたい」気持ちを尊重し、おもいっきり「楽しかった」と感じる遊び等の環境の工夫。	・保護者参加の活動が出来るようになってきたことを踏まえて、子どもの成長を喜び合い、他児へも目が向けられる場のなることや親子共に楽しめる場を提供していく。 ・子どもの活動の幅を広げ、内容の工夫を行う。 ・保護者対応の共有	・子ども一人ひとりの背景を全職員で周知する。そして、個々に寄り添った温かい保育を実践していく。 ・子どもが、夢中になって遊べる環境づくりをすることで、一緒に楽しむ。 ・子どもの成長を、保護者と共に喜び、分かちあえる場の提供をする。
施設共通の改善策	・気になる子や家庭には、全職員が共通した対応や見守りができるように、情報を得たらすぐに MTG を開き、周知し、対応を話し合って行動に移す。 ・子どもの「やりたい」思いや「楽しかった」と思える遊びができるために、事前の活動・教材研究をする。	・保護者参加の行事が、保護者に取り子どもの成長が実感できる場となるために話し合いを多く持つ。また、振り返りをして同じ方向を向いた保育ができるようにする。 ・園内研修、外部研修に積極的に参加して保育の質の向上（体操・手遊び等）を更に図っていく。 ・送迎時の保護者の様子や連絡帳から、保護者の困りごとに対し職員が同じ対応ができるようにし、振り返りを行い保護者の気持ちに寄り添えるようにする。	・コーナー遊びが充実するために、パーテーション等で使い仕切りを作りつつも、導線も確保して危険の無いように工夫する。そして、子ども自身が選択して遊べる環境作りをしていく。 ・何事も「自分だったら」と問題意識をもって取り組んだり、話ができる環境を作っていく。 ・保護者対応・子どもの姿から、気になることは共有し、話し合うことを続けていく。
保育施設としての自己評価	・年齢問わず情報共有を常に行い、全職員が同じ対応が出来るように話し合いの場を多くした。 ・園全体で、個々への対応や各家庭の子どもに対する考え方を考慮しながら、子どものできることを伝える対応をするようにした。	・保護者とのコミュニケーションを送迎時に多くとるように心がけた。 - また、連絡帳で気になることは、全職員で共有し、同じ対応ができるようにした。 ・年齢にとらわれず、家庭では経験できない遊びを取り入れることを意識して計画を立てるようにした。	
施設評価に対する施設長コメント	年間を通じて、子どものやりたい思いに寄り添い、たのしかったと思える遊びになるように、各クラスで話し合いながら臨機応変に対応して取り組めた。コロナ禍の中でも、工夫して地域に根差した保育を行えた。来年度も継続していきたい。 施設長 久保田 勝美	一年間を通じて、子どもが「楽しい一日だった」と思って帰れるように周知して活動の内容を工夫して考えることができた。また、継続性を持たせて、自園の特徴である「つながる保育」を個々の発達に合わせで行うことが出来た。 施設長 久保田 勝美	施設長 久保田 勝美